

キーパーコーティングのレジェンドが、念願のナンバーワンを獲得!

第5回 2018年 キーパー技術コンテスト入賞者インタビュー



技術コンテストのことは、1年中考えていました。会社から、出場のチャンスをもらえたら絶対に参加したいと思っていました。第1回で準優勝した時の悔しさが残っていて、チャンピオンになりたいという気持ちがあったからです。

会社としてコンテストに向けての活動がスタートしたのは1月から。上達会を20回以上実施し、68名が参加しました。2月には、社内コンテストを実施し、54名の参加があり、2日間かけて予選会を行いました。社内コンテスト予選会では、私がデモ施工を行い、技術を教える側の立場になり、コミュニケーションを取ることで、成長することができたと感じています。会社全体で一緒に取り組めたことが大きかったですね。



宮城県チャンピオン カメイ(株)カーコーティングプロショップ古川

浅野 真広 選手 168.00点(競技得点166.00点、時間加点2.0点、タイム42:33:00)
「ちゃんと塗れている、ちゃんと拭けている」を大事に、自分のスタイルを貫きました。

第5回を迎え、時間、品質ともにレベルが上がっているという実感がありました。時間は重要だけど、それよりも「ちゃんと塗れている、ちゃんと拭けている」ということを大事にやってきました。いろんな上手い人の施工を見ると、影響を受けてしまうけれど、自分のスタイルを貫くことを忘れませんでした。前のチャンピオンのDVDを見て、良いところを吸収して、自分のスタイルに取り入れて実践するようにしました。

本番では、焦りが出て上手くいかない部分もありましたが、品質だけは絶対に落とさないという気持ちで施工しました。

最後は、お客様のためにどう仕上げるかだけに集中しました。だから、最後の水滴が1個残ってしまったことが本当に悔しくて、悔しくて。お客様のためにどうキレイにするかが、技術コンテストの意味だと思っているからです。

キーパーと出会って、好きになって、上手くなりたいと思って、同じ上手くなりたい仲間たちと一生懸命頑張って、たくさ

んの人たちにお世話になって今の自分があります。これからも多くのお客様の車を施工しながら、自分の高めた技術をみんなと共有し、恩返しをしていきたいと思っています。



和歌山県チャンピオン

川福石油(株)高野口SS

山本 麻由 選手

166.17点(競技得点164.67点、時間加点1.5点、タイム44:27:00)



前回の悔しさをバネに、動画を撮影し、手数を徹底的にチェック

正直、とても悔しかったです。お世話になった会社の皆さんに申し訳ない気持ちもあって、思わず涙が出ました。でも2年連続ファイナリストに選んでいただけて、自分の存在を多くの人に知ってもらえたことは本当にうれしいです。

昨年のコンテストが初出場、県チャンピオンに選んでいただきました。昨年は、1級を取得して半年が8ヶ月くらいでの出場だったので、コンテストのための練習をたくさんしました。準決勝は3位で通過しましたが、決勝では11位。半分の施工はできて、1台となると経験不足がものをいいました。それが悔しくて、普段の施工から意識するようになりました。時間を決めて施工をしていましたが、私が県チャンピオンになったということを見て、来ていただいたお客様も多くいらっしゃったので、何よりも恥じないようお客様第一で施工をしました。

コンテストに向けて、特に手数を気をつけました。1台施工となると、手数の数で大きく差が出ると思ったからです。自分の施工を動画で撮ってもらって、テレビにつなげて塗り残しがな

いか確認しながら、また施工して、また動画で撮ることを繰り返しました。またレジンの拭き上げが苦手だったので、艶PACKを塗って拭く練習をしたり、筋が残らないように気をつけました。あとはとにかく緊張は絶対にしてしまうので、緊張しても飛ばないように、身体が覚えるまで施工を何度もしました。

今後はキーパーの魅力がたくさんのお客様に伝えていけるよう頑張りたいです。来年も女性の選手がたくさん活躍してくれたらうれしいです!



北海道チャンピオン

(株)三ツ輪商会Dr.Drive十條前店

佐藤 智幸 選手

166.17点(競技得点163.67点、時間加点1.5点、タイム41:04:00)



スピードや仕上げも意識して、来年は優勝旗を北海道へ!

昨年、県チャンピオン決定戦で準優勝をいただき、そこから1年間施工を続け、自信をつけてきました。コンテストに向けては、お客様の車をきちんと施工しつつ、自分の動きを動画に撮って、チェックしました。爆ツヤの施工が、ケミカル量や力の入れ具合が難しく苦手だったので、特に練習をしました。あとは塗り漏れに気をつけたり、角をきちんと取るといった基本的な部分を叩き込みました。

予選や県チャンピオン戦は、けっこうプレッシャーがありました。決勝は、あとは自分の施工をするだけだと緊張せず楽しく挑むことができました。浅野選手が隣だったので、追いつかなければと時間を意識しすぎて施工が少し雑になり、コンテストのための施工になってしまったかなという悔しい思いもありますが、3位という結果で終わってうれしく思います。会社全体がコーティングに力を入れているので、私たち選手をサポートしてくださっていて、コンテストに向けての準備と訓練がしっかりできたことに感謝しています。

全国チャンピオン決定戦に出たからこそ分かったことがたくさんありました。普段の施工から丁寧にやっていたら上位には行けるといいます。しかし、スピードや仕上げの部分にもこだわって突き詰めていかなければ勝つことができないと実感しました。普段からスピードや仕上げも意識していきたいと思っています。

しかし一番はコンテストのためでなく、お客様に喜んでいただくために施工をし、来年はリベンジして、優勝旗を北海道に持って帰りたいと思っています。



岡山県チャンピオン

4位

(株)ネクステージ Dr.Driveセルフ大安寺SS

岡崎 光希子 選手

165.50点(競技得点165.00点、時間加点0.5点、タイム46:02:00)

皆さんの動きのはやさに、とてもびっくりしました。今回のコンテストで、私は時間を短縮するために、徹底的に次の作業への「つなぎ」に気をつけました。車に触っていない時間をいかに減らすか。そのために、クロスや脚立の位置を細かく考えました。そして、コンテストでも普段どおりに、お客様の笑顔イメージしながら施工し、何よりも大事な最終仕上がりをイメージしてキッチリキレイにすることができて良かったです。そんな気持ちで取り組めるキーパーが、私は大好きです。これからは、後輩たちに技術を伝え、育てていきたいと思っています。



茨城県チャンピオン

5位

(株)アドバンス・カーライフサービス Dr.Driveセルフつくば研究学園店

中嶋 彩貴 選手

164.33点(競技得点163.33点、時間加点1.0点、タイム45:11:00)

初めて出場した時は、コンテストのために施工の練習をしていました。実践が少なかったため、県チャンピオン決定戦4位で終わりました。それからお客様の車を多く施工するようになりました。コンテスト直前には、自分の施工を動画で撮ってもらい、安藤選手の施工の動画と同時に再生し、どこが遅いとか、どこが違うかを研究して、次の動作までスムーズに迷わず作業できるように改善していきました。とにかく何も考えなくても勝手に身体が動くように、ひたすら同じように施工しました。でもチャンピオンに比べてまだまだ迷いがあります。もっとたくさん施工して、自分のスタイルを極めて、来年優勝したいです!



福岡県チャンピオン

6位

日米磯油(株)九州支店Dr.Drive高砂店

吉川 馨渚 選手 162.67点

第4回は福岡県2位でした。その時は、ラックの動かし方、歩幅、クロスを持ち方、ケミカルを置く場所など施工を研究しました。100点ビデオなども見ながら、自分にとって一番はやいやり方を探し、それが今の自分のペースになっています。今回は、施工しているうちにぐずれてきたベースをもう一度徹底的に見直しました。皆さん本当にはやく、スポーツ競技そのものでした。日々の施工はもちろん大事ですが、得点を取る訓練や戦略も必要になると思います。第一線でコーティングに取り組んできましたがそろそろ世代交代。今度は次の世代へキーパーコーティングの技術と感動を伝えていきたいです。

